



愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

令和6年春季版

(令和6年5月17日)

※学生・生徒の所属と学年は取材時(大会時)のものであります。

センバツ大会10回目の出場

愛工大名電高校野球部が、第96回選抜高校野球大会に東海地区代表として出場しました。春の甲子園出場は、8強入りした2012年以来、12年ぶり10回目。令和3年から夏の甲子園に3年連続出場している名電野球部に、輝かしい実績が加わりました。



選抜大会は、夏の大会後に結成された新チームが、秋季大会で結束を固め、冬場の鍛錬を経て成長した姿を披露する場であり、その後の飛躍に向けた礎を築く場とされています。

名電野球部は、9月10日から始まった秋季県大会で誠信高校を1対1、安城高校を9対0、愛産大工業高校を1対0、豊橋中央高校を2対0で下し、決勝では豊川高校に7対1で勝利して、愛知1位で東海大会に出場しました。10月21日から始まった秋季東海大会では、静岡県の日大三島高校を7対4、同じく静岡県の藤枝明誠高校を10対6で下して決勝に進出。決勝では豊川高校に序盤から打ち込まれ、いったんは0対8という一方的なスコアになりました。そこから驚異的な追い上げを見せ、最終回には一打逆転というところまで追い詰めましたが、惜しくも7対8というスコアで準優勝となりました。

愛工大名電がセンバツ東海地区代表に選ばれたのは、新チームのスタートが他校より遅くなるハンデを跳ね返して秋季県大会を制し、また東海大会決勝でチーム一丸となって最後まであきらめない戦いをしたこと、そして選手たちの日ごろの練習に臨む真摯な姿勢や、相手への敬意を忘れない品位ある行動が評価されたといえます。



選抜大会出場決定(1月26日)



選抜旗授与(2月28日)



県市表敬訪問（2月9日）



壮行会（3月6日）

悲願である19年ぶりの全国制覇を目指した春の甲子園の初戦（3月22日）は、今大会準優勝校となる報徳学園（兵庫）との対戦になりました。全国の高校野球ファンが注目した実力校同士の対決は、序盤から息詰まる投手戦に。伊東尚輝投手（3年）の129球の力投にこたえ、打線も大会屈指の報徳投手陣から9安打を放ったものの、堅守に阻まれ延長タイブレークの末に2対3でサヨナラ負けしました。アルプススタンドから愛工大名電の1400人の大応援団は最後まで声援を送り続け、熱闘を繰り広げた選手らを温かい拍手でねぎらいました。



10回目のセンバツ出場を果たした名電野球部

激闘を振り返って

第96回選抜甲子園の応援ありがとうございました。12年ぶりの春の甲子園、夏とは趣が異なり、「新しい季節のはじめに新しい人が集いて、頬そめる胸の高ぶり…」という谷村新司さんの『今ありて』の歌が心に染み入り、共感を呼ぶところでした。応援団の期待に反し初戦敗退は残念でしたが、準優勝した報徳学園高校を延長10回まで苦しめ、とどめを刺せなかったものの、選手は一丸となり実力を出しきり、思いを込めたプレーをすることができました。ゲームメイクの課題を見出し、今後につながる貴重な試合といえます。新基準の金属バットは飛距離が抑えられて、投手を中心にした堅守と競い合いの強さが一層求められるようになりました。新たな高校野球、新戦法の幕開けです。甲子園球場100周年というメモリアルな大会に出場し、夏春4年連続で聖地でプレーし、応援の皆様と一体になれたことに深く感謝し、学園、OB、関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。



倉野光生監督



山口泰知主将

「これが甲子園だ！」球場にはそれを感じさせる独特の雰囲気がありました。自信と闘志、万全のコンディション、準備は万全でした。しかし、試合の結果は2対3での惜敗。守備と、勝負所での強さの差が勝敗を分けたと思います。昨年の夏に続いて甲子園で勝つことの難しさをあらためて感じました。しかし、ここで下を向いている暇はありません。春の負けの悔しさを持ち続けて、夏に再び甲子園に戻っていきたくです。応援団の皆さん、先生方の熱い応援ありがとうございました。

篠塚大登、パリ五輪へ！

大学男子卓球部の篠塚大登(2年=選出時)が2024年パリ五輪の男子卓球代表メンバーに内定し、2月5日に日本卓球協会から発表がありました。



篠塚大登(写真はITTF提供)

篠塚は昨年5月の世界卓球2023南アフリカを体調の理由で直前に辞退しましたが、勢いを取り戻して着実に実績をつみ重ね、この時点でパリオリンピックシングルス選考ポイント3位となって2月の世界選手権釜山大会(団体戦)の代表に決まりました。

五輪卓球では、大学OBの吉村真晴選手(2016年リオ五輪)や鬼頭明選手(2004年アテネ五輪・現本学卓球部総監督)も出場していますが、現役の学生としての出場は篠塚が初となります。※大学としての現役学生の夏季オリンピック出場は1968年メキシコシティ五輪出場のフェンシング部・若杉和彦選手以来2人目となります。

内定を受け、篠塚は「パリオリンピック日本代表に選出され大変うれしく思います。この結果は、これまで応援、サポートしてくださった方々のおかげです。まずはそのことに感謝しています。パリオリンピックまでの半年間、覚悟を持って頑張ります」と話しました。

「金メダルを！」 地元・東海市で激励会

7月に開幕するパリ五輪の代表に内定している本学男子卓球部の篠塚大登(2年)が、3月28日、地元の愛知県東海市役所で開かれた激励会に出席しました。



東海市出身の篠塚は、この日、市民・職員らの拍手に迎えられ市役所へ。花田勝重市長から激励金と花束を受け取り、「市民一丸となって応援します」とエールを送られました。

地元で幼少時から卓球を始め、



中高時代は愛工大名電の卓球選手として仲間と切磋琢磨してきた篠塚は、パリ五輪の団体戦要員として代表候補予定選手に選出されています。激励会では「地元が大好きなので、お祝いしていただけてうれしかった。オリンピックでは金メダルを目指して頑張りたいです」と活躍を誓いました。



中村優斗、「侍ジャパン」デビュー！

大学硬式野球部エースの中村優斗投手（3年＝選出時）が、野球日本代表「侍ジャパン」の欧州代表戦メンバーに選出され、3月7日に京セラドーム大阪でデビュー戦を飾りました。

中村投手は2月14日、記者会見場の八草キャンパス本部棟会議室で、硬式野球部の服部洋児部長と平井光親監督とともに、出場選手発表のネット中継を見守りました。井端弘和・侍ジャパン監督から背番号「28」とともに自分の名前が告げられると、小さくうなずいて表情を引き締めました。侍ジャパン常設後初となる、大学生選手4人のうちの1人としての抜擢でした。

最速157キロのストレートと制球のいいスライダーを武器に、去年は愛知大学野球リーグ1部で春秋ともに最多奪三振のタイトルを獲得している中村投手は、報道陣の質問に答え、「与えられたポジションで打者を圧倒できるピッチングをしたい。愛工大代表、愛知リーグ代表として、日本の勝利のためにベストを尽くしたい」と力強く語りました。



平井光親監督とがっちり握手

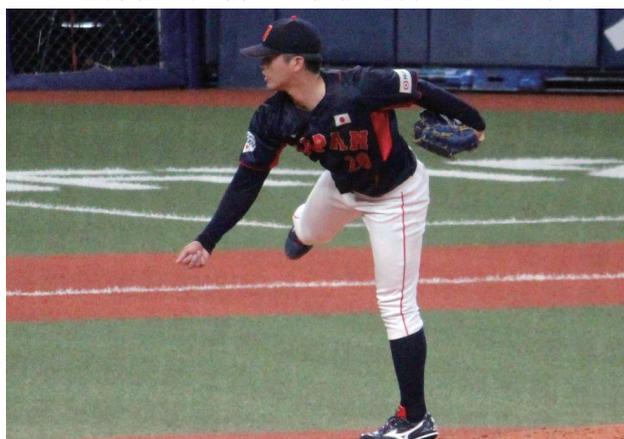


選出の報を受け表情を引き締める中村投手



笑顔で花束を受け取る中村投手

欧州代表との強化試合第2戦（3月7日・京セラドーム大阪）で、中村投手は2番手で登場。直球が自己最速タイの157キロを計測するなど、1イニングを打者3人斬りの快投で抑えました。



中村は、同じ大学生の先発・金丸夢斗投手（関西大）の後を継ぎ、3回からマウンドへ。投じた11球中、直球7球がすべて155キロを超えたほか、外角低めに鋭く決まるスライダーで空振り三振を奪うなど、衝撃のデビュー戦を飾りました。

名電野球部OBの広島・田村選手も侍デビュー戦で初安打

侍ジャパン欧州代表戦では、学園出身の広島東洋カープの田村俊介外野手（2022年名電高校卒）も選ばれました。高校時代は投打に活躍し、3年の夏に甲子園に出場。プロ入り後、昨季は出場10試合ながら打率3割6分4厘の成績を残しました。井端監督は「国際試合で見たい選手」と、若手の成長株への期待を語りました。

最年少の20歳で代表入りを果たした田村選手は、初スタメンの3月7日、初安打をマークしました。

篠塚・田中出場の世界卓球はベスト 8 入り



篠塚大登



田中佑汰 (写真はいずれも ITTF 提供)

大学男子卓球部の篠塚大登 (2年) と同OBの田中佑汰 (2023年卒業) が出場した世界選手権釜山大会 (2月16~25日) で、日本男子チームはベスト 8 入りを決めてパリ五輪団体出場権を獲得、五輪シングルス 2 枠を得ました。

篠塚・田中両選手の活躍などで日本男子は第 1 ステージを 4 戦全勝、グループ 1 位で決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメント初戦となった 2 回戦はオーストリアに 3-0 でストレート勝利し、ベスト 8 進出を果たしました。

続く準々決勝は、今大会で新記録の 11 連覇を達成することになる中国が相手。篠塚が中国の馬龍選手を相手に 1 ゲーム奪取するなど日本男子チームは善戦しましたが、日本の若い力を警戒して全力でぶつかってきた中国に 3-0 で敗れました。

全日本卓球の混合ダブルスで 1 位・2 位の表彰台に

東京体育館で 1 月 22 ~ 28 日に開催された全日本卓球選手権大会で、大学卓球部の選手が混合ダブルス 1 位・2 位の表彰台に上がりました。

混合ダブルスの 1 位は、大学 2 年の篠塚大登。木下グループの木原美悠選手とペアを組み、決勝で谷垣佑真 (2 年) / 岡田琴菜 (3 年) の同じ愛工大ペアと対戦しました。頂点を決める戦いは、2021 年世界ユース卓球混合ダブルスを制した実績のある篠塚 / 木原ペアが 3-1 で競り勝ち、篠塚は全日本初タイトルを獲得しました。

このほか学園の選手たちは、篠塚が男子シングルス 3 位、坂井雄飛 (高校 2 年) がジュニア男子 3 位などの成績を収めました。



準優勝の谷垣 (左) / 岡田の愛工大ペア

学園出身の選手たちも、日本大の小林広夢選手 (高校OB) が男子ダブルス優勝、吉村真晴選手 (TEAM MAHARU・大学OB) が男子シングルス 3 位、吉山和希選手 (岡山リベッツ・中学OB) がジュニア男子 3 位と活躍しました。

第 1 回ケアリッツカップで大学男子卓球部が優勝

実業団と大学の交流戦「第 1 回ケアリッツカップ」が 3 月 17 日に東京の有明コロシアムで行われ、大学男子卓球部が優勝しました。日本リーグに参戦している「ケアリッツ・アンド・パートナーズ」が開催し、第 1 回大会には実業団 8 チーム、大学 8 チームの 16 チームが参加。大学男子卓球部は、注目のドリームチームであるケアリッツ・オールスター (松平健太、丹羽孝希、吉村真晴、吉村和弘各選手) を準決勝で破り、決勝ではケアリッツ・アンド・パートナーズを下して初代王者に輝きました。



混合ダブルスを制した篠塚 (左) / 木原ペア



左から谷垣佑真、篠塚大登、岡田琴菜の各選手 (写真はいずれもニッタクニュース提供)

中学卓球部が選抜王座を奪還！



選抜王座を奪還した中学卓球部（写真は卓球王国提供）

第25回全国中学選抜大会（3月23～24日・群馬県高崎アリーナ）で、中学卓球部が2年ぶり9回目の優勝を決めました。全試合ストレート勝利して春の王座を奪還しました。

昨年王者の野田学園(山口)が準々決勝で敗れ、決勝の相手は高知県の明德義塾となりました。同時進行となった1番の月原弘暉（2年）と2番の郡司景斗（同）は、ともに3-1で勝利。続く同時進行の3、4番は、先に4番の立川凜（1年）が3-0で勝利し、これでチームの優勝が決まりました。3番ダブルスの高森健太/浅里巧真（ともに1年）も3-0で勝利し、2年ぶりの王座を完勝で祝いました。

一方、高校卓球部は第51回選抜大会（3月21～24日・山形県山形総合運動公園体育館）準決勝で、希望が丘（福岡）に5番までもつれた末に惜敗し、2年ぶりの王座奪還はかないませんでした。

大学競技スキー部が中部日本学生スキー大会で総合3連覇

第69回中部日本学生スキー選手権大会が、3月8～10日に長野県の白馬岩岳スノーフィールドと白馬クロスカントリー競技場（スノーハープ）で開催され、大学競技スキー部が通算17回目となる男子総合優勝（3連覇）を達成しました。

中部地区9大学から約60人が参加し、アルペンとクロスカントリーのそれぞれ3種目で競いました。アルペンの野口幸太郎（3年）が大回転と回転でそれぞれ準優勝したほか、水谷凜（1年）もスーパー大回転で準優勝するなど、全6種目のすべてで入賞し、3年連続の総合優勝へとつながりました。



準優勝した野口幸太郎の滑り



総合優勝を決めた競技スキー部

主な成績は以下の通りです。

■男子総合優勝（3年連続17回目） ■アルペン ▽スーパー大回転 準優勝：水谷凜、6位：山岸康平（1年） ▽大回転 準優勝：野口幸太郎、3位：山岸康平、4位：水谷凜 ▽回転 準優勝：野口幸太郎、4位：水谷凜 ■クロスカントリー ▽10kmフリー 5位：林田直樹（4年） ▽10kmクラシカル 3位：林田直樹 ▽3km×4リレー 準優勝：愛知工業大学＝林田直樹、鈴木駿輔（2年）、水谷凜、山岸康平

日本学生フェンシングカップ（個人戦）男子エペ準優勝



男子エペ準優勝の山代屋和史

東京の駒沢オリンピック公園で4月19～21日に開催された第5回日本学生フェンシング・カップ（個人戦）の男子エペで、本学フェンシング部の山代屋和史（4年）が準優勝に輝きました。

今回の結果を受け、山代屋と山本瑛未瑠（3年）、阿南一眞（2年）、堀智貴（2年）の本学4選手が、9月に行われる第77回全日本フェンシング選手権大会（個人戦）への出場権を獲得しました。

高校吹奏楽部の第59回定期演奏会



感動を届けた第59回定期演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の第59回定期演奏会が、1月6日夜と1月7日昼・夜の3公演体制により、名古屋国際会議場センチュリーホールで開かれました。

プログラムは、伊藤宏樹顧問らの指揮による全4部構成。3公演ごとに内容に少しずつ変化を持たせて名電サウンドを届けました。

公演は、2023年度全日本吹奏楽コンクールで演奏した「ポロネーズとアリア～吹奏楽のために～」(課題曲)、「交響詩『モントニャールの詩』」(自由曲)で幕開けした後、

昨年11月の第36回全日本マーチングコンテストで金賞に輝いた勇壮なドリルステージや、衣装から手作りしたミュージカル「オペラ座の怪人」などを次々と披露しました。

いきものがかりの名歌「YELL」では、昨年11月の国民文化祭で訪れた石川の地へ思いを込めて、会場全体を巻き込みながら歌声を送りました。公演会場では能登半島地震義援金への協力を呼び掛け、集まった善意を日本赤十字社に寄託しました。

学 園 表 彰

学園は2～4月にかけて、全国大会で頂点に立った各クラブに対して学園表彰を行いました。後藤泰之理事長らが祝福の言葉を述べ、愛名会からもお祝いが贈られました。選手と指導者たちが今後ますますの活躍を誓いました。

【2月27日の表彰】

▼高校吹奏楽部

第36回全日本マーチングコンテスト(11月19日・大阪城ホール)で金賞受賞



【3月19日の表彰】

▼中学卓球部

2023年全日本卓球選手権大会(カデットの部)13歳以下男子シングルス(11月3～5日・徳島県鳴門県民体育館)で立川凜(1年)が優勝



▼高校フェンシング部

第31回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会ジュニア部門女子サーブル(1月4日・駒沢オリンピック公園屋内球技場)で金高生幸(2年)が優勝



【4月1日の表彰】

▼大学男子卓球部

天皇杯・皇后杯2024年全日本卓球選手権大会混合ダブルス(1月27日・東京体育館)で篠塚大登が優勝



全国高校囲碁選抜個人戦で優勝

3月19～20日に大阪商業大学で開催された「第18回全国高等学校囲碁選抜大会」の男子個人選手権戦で、高校科学技術科2年の羽根和哉さんが優勝しました。全国各ブロックの代表16人が出場した頂上決戦で、羽根さんは4戦全勝して優勝を勝ち取りました。羽根さんは、祖父の羽根泰正九段、父の羽根直樹九段をはじめ母も姉もプロ棋士という囲碁一家に育ちました。生まれたころから当たり前のように囲碁に親しみ、姉と一緒に囲碁教室に通って大会に出場するようになりました。3年生になった現在も囲碁ソフトを使って練習に励んでおり、卒業後は大学に進んで好きな機械の勉強と囲碁の二刀流を目指す考えです。



荻原哲哉校長の祝福を受ける羽根和哉さん（左）

クラブ表彰

全国大会に出場の各クラブを表彰しました。 ※11月～3月

【11月27日の表彰】

▼大学陸上競技部

秩父宮賜杯 全日本大学駅伝対校選手権大会

▼大学フェンシング部

2023年度全日本学生フェンシング選手権大会
第76回全日本フェンシング選手権大会

【12月22日の表彰】

▼高校吹奏楽部

全日本マーチングコンテスト

▼高校ボウリング部

文部科学大臣杯 第30回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会

▼高校将棋部

全国高等学校文化連盟将棋新人大会

【3月1日の表彰】

▼高校野球部

第96回選抜高等学校野球大会

【3月19日の表彰】

▼高校卓球部

第51回全国高等学校選抜卓球大会

▼高校フェンシング部

第48回全国高等学校選抜フェンシング大会



▼中学スキー部

第61回全国中学校スキー大会（クロスカントリー）

▼中学メカニカルアーツ部

ロボカップジュニア・ジャパンオープン2024名古屋

▼中学卓球部

第25回全国中学選抜卓球大会

▼高校相撲部

令和5年度全国高等学校相撲選抜大会

▼高校バレーボール部

第29回全国私学高等学校男女バレーボール選手権大会

▼高校ウェイトリフティング部

第39回全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会

▼高校スキー部

第73回全国高等学校スキー大会

第36回全国高等学校選抜スキー大会

▼高校メカニカルアーツ部

ロボカップジュニア・ジャパンオープン2024名古屋